

令和 6 年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立長居小学校

令和 7 年 3 月

大阪市立長居小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和 6 年度の児童数は 709 人、学級数は 33 である。令和 7 年の秋から西校舎の改築工事が検討されており、2 年半にわたって運動場が非常に狭くなる見込みである。

【安心・安全な教育の推進について】

- ・令和 5 年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は市平均を下回ったが、令和 5 年度に認知した案件は、すべて解消できている。
- ・令和 5 年度の不登校児童の割合は、0.7% である。不登校等の案件は、SC、SSW、区役所子育て相談室、こども相談センターと密に連携し、組織的な対応に努めている。
- ・令和 5 年度小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と回答した児童の割合は市平均を上回った。

【未来を切り拓く学力・体力の向上について】

- ・令和 5 年度全国学力・学習状況調査において、国語、算数とも全国平均を上回った。
- ・令和 5 年度小学校学力経年調査において、次の学年、教科で市平均を上回った。
(6 年社会、算数、理科、英語、5 年全教科、4 年国語、社会)
- ・令和 5 年度全国体力・運動能力調査において、男子 3 種目（上体起こし、反復横跳び、20m シャトルラン）、女子 2 種目（長座体前屈、20m シャトルラン）で市平均を上回った。しかし、体力合計点は男女ともに市平均を下回り、立ち幅跳びでは 10cm 以上下回った。
- ・「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答した児童の割合は市平均を上回ったが、「1 週間の総運動時間が 60 分未満の児童生徒の割合」が男女ともに高く、女子は全曜日で総運動時間が 60 分未満だった。

【学びを支える教育環境の充実について】

- ・学校教育を支える基盤的なツールとして、ICT を活用する必要がある。家庭への持ち帰りも進めていく。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 は、時間外勤務の上限を「月 45 時間」「年間 360 時間」としている。長時間の時間外勤務が常態化しているため、ゆとりの日を設定し、時間を意識できる取り組みを継続していく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。（令和5年度 81.4%）
- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を91%以上にする。（令和5年度 90.1%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を32%以上にする。（令和5年度 30.8%）
- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を68%以上にする。（令和5年度 63.6%）

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える3年生以上の児童の割合を、100%にする。
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を、令和7年度末に56.4%にする。
(令和5年度 43.4%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。（令和5年度 94.4%）
- 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。（令和5年度 94.3%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。（令和5年度 44.5%）
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を68%以上にする。（令和5年度 66.6%）

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の85%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を50%以上にする。（令和5年度 43.4%）

3 本年度の自己評価結果の総括

「中期目標」の達成状況は次のとおりだった。

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は83.3%で下回った。（目標：85%以上）
- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合は96.3%で上回った。（目標：91%以上）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合は38.0%で上回った。（目標：32%以上）
- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合は66.5%で下回った。（目標：68%以上）

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える3年生以上の児童の割合は84.8%で下回った。（目標：100%）
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合は36.96%で下回った。（目標：令和7年度末に56.4%）

3つの最重要目標における「年度目標の達成状況」はB評価とした。「年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標」は、A評価が6項目、B評価が6項目、C評価が2項目とした。特に、C評価の取組内容について修正や見直しを図り、年度目標の達成に繋げていく。

(様式2)

大阪市立長居小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。(令和5年度 94.4%) 90.5, 90.6, 95.6, 95.4 → 93.0% ○小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。(令和5年度 94.3%) 96.4, 95.6, 97.5, 93.7 → 95.8%	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ・児童の社会性の向上をねらい、廊下・階段の安全な歩行ができるよう、環境整備や各種委員会との連携を図りながら、全職員で日常的に指導する。 ----- 指標 前期比2ポイント減 前年比10ポイント減 ・安全歩行週間を年2回以上実施し、安全な歩行について啓発を図る。 ・学校評価児童アンケートにおける「ろうか・階段を安全に歩いている」の項目において「そう思う」と回答する児童の割合を昨年度より向上させる。	B
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ・ペア学年集会や児童会行事を通して異学年間の交流を深め、互いを思いやり、助け合い支え合っていこうとする気持ちを育む。 ----- 指標 75+17=92% 80%以上達成 ・学校評価児童アンケートにおける「ペア学年で協力して活動できていますか」の項目において肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ・ペア学年活動を通して他学年と交流する機会を学期に1回以上設ける。	A
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・年間を通して人権課題に対する正しい知識と認識を深める授業実践により、児童の人権尊重に関わる道徳心を高める。 ・係活動や委員会活動、当番活動を通して学年に応じた自己肯定感・自己有用感を高めるための取り組みを行う。	B
指標 80+17=97% 「そう思う」80%達成 ・学校評価児童アンケートにおける「係活動や委員会活動、当番活動を通して、人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目で「そう思う」の割合を80%以上にする。	

<p>取組内容④【基本的な方向２ 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち物への記名を徹底させ、落とし物について児童や家庭へ啓発することで、身のまわりの物を大切にしようとする意識を高める。 <hr/> <p>指標 60+33=93% 「そう思う」60% 前期比4ポイント減 目標10ポイント減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価児童アンケートにおける「身のまわりの物を大事に使ったり、使ったものをきちんと片づけていたりしている」の項目において「そう思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。 ・学期に1回以上持ち物への記名の確認を行い、落とし物を減らす事について学級で考える時間を設ける。 	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 生活委員会で行った安全歩行週間などの活動を通して意識づけを行った。「ろうか・階段を安全に歩いている」の項目において「そう思う」の回答は、48%（前期50%）で、昨年度からは10ポイント減少した。肯定的な回答は91%（前年度93%）であった。</p> <p>② 「ペア学年で協力して活動できていますか」の項目において、肯定的回答92%（前期96%）と目標は大きく達成したものの、後期で落ち込みが見られた。特に3、4年生で学齢に近い組み合わせのため、活動時の負担感を感じている児童がいるようだった。</p> <p>③ 低学年では帰りの会などでの「良いところみつけ」、高学年では「一人一役」などの日常的な取り組みを通して、自己肯定感・自己有用感を高めてきた。また全学年を通して係活動に自発的に取り組めるように工夫してきた。その結果、「そう思う」の回答割合は80%と指標を達成できた。</p> <p>④ 参観日に掲示したり、学期末に落とし物を回覧したりしてきた。また、生活委員会のポスターや終わりの会などで日常的に記名の確認を行い、意識づけをしてきた。しかし、「そう思う」は60%（前期64%）と減少し、指標に10ポイント届かなかった。</p>	
次年度にむけての改善点	
<p>① 後期に行ったクラスごとに目標を設定する「アルクンジャー」の取り組みが効果的であったものの、高学年で「そう思う」の回答割合が40%と低く、安全歩行週間だけでなく、日常的な意識づけのために視覚支援を工夫していく必要がある。保健室とも連携し、怪我のリスクを発信し、なぜ走ってはいけないかを一人ひとりに理解させる必要がある。</p> <p>② ペア学年の組み合わせを1－6、2－4、3－5に変更しても良いかもしれない。</p> <p>③ 各学年に応じた日常的な取り組みの成果が見られる。児童会活動や係活動などを通して、今後も自己肯定感・自己有用感を高めるための実践を継続していく。</p> <p>④ 昨年度より「そう思う」の回答割合が大きく減少した。アンケート結果が実際の落とし物の実態と異なるとの反省が毎年あり、啓発活動を続けてきた結果、児童が現状を認識したことが減少の要因とも考えられる。生活委員会の活動や日々の学級指導により、記名の意識は高まっているものの、落とし物の総数は横ばいである。今後も委員会活動などを通して持ち物への記名について呼びかけ、落とし物の減少に繋げたい。</p>	

大阪市立長居小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 45%以上にする。 （令和 5 年度 44.5%） 38.9, 46.2, 36.6, 37.6 → 39.8% ○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 68%以上にする。（令和 5 年度 66.6%） 71.6, 64.1, 69.6, 63.3 → 67.1%	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・主体的・対話的で深い学びに向かう学習活動を通して、児童が自分の思いを伝える力と聞く力を育てていく。 ----- 指標 ・1日1回以上話し合い活動を設ける。 ・話し合い活動についてのふりかえりを週に1回以上行う。	A
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・話し合い活動に積極的に取り組み、主体性をもって学習をすすめることができる児童を育てていく。 ----- 指標 ・活発な話し合い活動ができるように、1日1回以上、話し合い活動をする前に自分の考えを書く時間を設ける。	B
取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 ・運動場の使い方を見直し、様々な遊びに触れられるよう環境を整える。 ----- 指標 ・学校評価児童アンケートの「外で遊んでいる」の項目の肯定的回答を 68%以上にする。（令和 5 年度 67%）	C
取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 ・友だちと一緒に体を動かす楽しさを味わう機会を増やす。 ----- 指標 ・各学級で月1回以上、運動場でのみんな遊びを設定する。	A

取組内容⑤【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 ・運動に親しむ活動の内容や場作りを工夫し、自ら体力づくりに取り組む児童を育てる。	B
指標 ・高学年児童と協働して、体を動かす取り組みを年3回設定し、実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>後期の学校評価アンケートにおける「話し合いの中で自分の考えを広げたり、深めたりすることができる」という項目では、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合が46%と目標を上回ることができた。</p> <p>① 全学年でどの教科にもハンドサインを活用し、グループやペアで伝え合う活動を1日1回以上実施した。低学年では、朝の会で今日一日の「めあて」に理由をつけて発表したり、友達に聞いてほしい話題について伝え合ったりした。高学年では、各教科で授業中に話し合う機会を前期より多く設けるようにした。それにより主体的に自分の考えを発表しようとしたり、友達の意見に耳を傾けようとしたりする態度が養われている。</p> <p>しかし、低学年において、最も肯定的に回答する割合が目標の45%を大きく超えている一方で、4年生以上の高学年では、40%に達していない。その理由として高学年では話し合う内容が難しいからだと考えられる。</p> <p>② どの学年も話し合い活動の前に自分の意見をもたせる時間を設けるようにした。国語科、算数科や道徳科では、多くの学年が自分の考えを書く時間を設けてから自分の考えを伝え合った。総合的読解力の時間には、思考ツールを用いて自分の考えを自由に表現し交流した。</p> <p>しかし、低学年では書くことに時間がかかり、毎回行うことができなかった。また自分の考えを文章化することに苦手意識のある児童も多く、書く時間を設けているが児童の効果的な活用には個人差が大きい。</p> <p>③ 「外で遊んでいる」の項目の肯定的回答 全体 前期 48% → 最終 59% 1年 66% → 77% 2年 68% → 68% 3年 50% → 49% 4年 58% → 68% 5年 32% → 62% 6年 12% → 20%</p> <p>指標の68%には届いていないものの、前期に比べて結果が上がっている学年がほとんどで、全体で11ポイント上昇した。各学級での取り組みや、教職員が積極的に運動場へ出て遊んでいることがポイントアップにつながっている。</p> <p>しかし、道具を使える時間を分けたことで、鬼ごっこが好きな児童は道具を使える時間に外に出なかったり、その逆もあったりしている。また、アンケートの文面に対する児童の認識がそれぞれ異なるため、それが「外に出ていない」と答えた児童の否定的な回答に繋がったと考えられる。</p> <p>④ 各学級で係を設定して、月1回ではなく週に数回、運動場でみんな遊びを実施している学級がほとんどである。</p> <p>⑤ 体を動かす取り組みを年3回設定し、計画的に実施している。</p>	

次年度にむけての改善点

- ① 高学年でも「昨日、何をしましたか?」「昨日、何を食べましたか?」などの日常的话题を設定し、話し合う機会を毎日設けることで、話し合いへの苦手意識をなくしていく取り組みが必要である。また、話し合う内容が難しい場合には、苦手意識をもつ児童に対する個別の手立ても必要である。
- ② 低学年では、自分の考えを書く時間を短縮するためにも、思考ツールを使って自分の考えを表現できるような取り組みが必要である。そのためには、さまざまな教科で思考ツールを活用した授業づくりを行う必要がある。また、高学年においては、自分の考えをなかなか書けない場合には、友達の意見を参考にして自分の考えをもたせる時間を設ける必要がある。
- ③ 1日に1度運動場に出れば「出ている」と言えるのか、それとも毎時間出ていなければ「出ている」とは言えないのか、その基準が児童の間で定まっていない。そのため、「どの程度出ていれば『そう思う』と判断するのか」が児童によって異なっている。基準を明確に設けることで、数値がより明確になるのではないかと考える。
- ④ 次年度も、各学級で工夫しながら、月に1回はみんな遊びを実施していく。
- ⑤ 次年度も、学期に1回(年3回以上)体を動かす取り組み実施する。また、体力テスト等の結果をもとに体力や運動面の課題を分析し、それを補う運動を児童が主体的に考え、実施できるようにする。

(様式 2)

大阪市立長居小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 85%以上にする。 8 割以上活用日数 → 2.1%（4 日） ○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 50%以上にする。（令和 5 年度 43.4%） 基準 1 → 36.96%	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ・児童が学習者用端末の操作に慣れ、日常的に ICT 機器の活用を進められるようにする。 ----- 指標 ・スクールライフノートの活用を進め、全学年で「こころの天気」の入力を毎日行う。	A
取組内容②【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ・学習者用端末の活用を推進し、効果的に ICT 機器を活用していくことができるようにする。 ----- 指標 ・3 年生以上の児童を対象に、学習者用端末の持参・持ち帰りを毎日行う。 ・家庭学習や連絡帳などで学習者用端末を活用する機会を 1 週間に 4 回以上設定する。	A
取組内容③【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ・学習者用端末のより効果的な活用をすすめるために、教職員の指導技術向上をはかる。 ----- 指標 ・学習者用端末の活用を扱った研修会を年間 3 回以上行う。	B
取組内容④【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・職員会議、部会、打ち合わせ会等の効率化を進め、事務連絡・集計作業に係る時間を削減する。	A

指標	
・ Teams や Forms など連絡・調査・アンケートの運用を効率化する。 （研究討議会、児童・保護者アンケート、校務分掌部会開催計画で実施） ・ 職員会議、校務分掌部会、教科領域部会を前年度より 1 回ずつ減らす。	
取組内容⑤【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・ ゆとりの日を設定し、勤務時間の適正化を図る。	B
指標	
・ 毎月の行事予定でゆとりの日を設定し、教職員の 18 時退勤をすすめる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 前年度と比較すると、「こころの天気」の入力の指導を行わなくても自主的に取り組む児童が増え、習慣化されてきた。1 年生でも少しずつタブレット端末を活用する機会が増え、操作に慣れてきた児童も増えている。	
② 連絡帳を Teams で配信したことにより、家庭で毎日学習者用端末を使う機会を設けることができた。学年の実態に合わせて、デジタルドリルを配信、音楽の学習で使う楽譜を学習者用端末に保管して家庭で練習できるようにする、宿題の音読の録音をするなどの取り組みが進んでいる。	
③ I C T 支援員による研修を学期に 1 回実施し、研鑽を積むことができた。3 学期は、端末の年度引き継ぎに関する研修を行う予定である。	
④ 連絡やアンケートを Teams や Forms で運用したことで、作業の効率化を図ることができた。また、研究討議会では授業についての意見を Teams に入力したことで、教職員全体ですぐに共有できただけでなく、データとして保存することで今後の振り返りにも生かすことができた。さらに、職員会議や各部会の会議の回数は、前年度と比べて 2 回減らすことができた。	
⑤ 毎月ゆとりの日を設定できた。ゆとりの日は、18 時に退勤することができた。	
次年度への改善点	
① 朝の用意に時間がかかったり遅刻したりする児童には、引き続き入力を指導するとともに、教職員の端末を活用した入力も進めていく。入力している児童の割合は 48%。	
② 学習者用端末の使用状況が 66% のため、次年度にむけて学習者用端末を生かした授業を行うことができるようにする。	
③ I C T 機器を活用した実践や学習者用アプリケーションは常に更新され、機能が拡充されているので、教職員の継続した I C T 活用能力の向上のために、全体で必修研修を行う。さらに研修で学んだことを生かせるよう、日ごろの授業にも I C T を活用した授業を行っていく。	
④ 学校行事についての振り返りアンケートは、働き方改革の観点から作業の効率化を図るため、Forms を活用するとともに、部会で直接意見を募る方法を併用して実施する。また、必要に応じて臨時の部会を開催する。	
⑤ 次年度も継続してゆとりの日を設定していく。	